

式 辞

雪に閉ざされた厳しい冬が過ぎ、春の兆しを感じられる本日ここに、来賓、保護者の皆様のご臨席を賜り、無事に236名の生徒に卒業証書を授与できたことを大変嬉しく思います。

卒業する皆さんは中学3年間をコロナ禍、高校3年間をポストコロナの世界で過ごしました。多感な時期に大きく異なる2つの世界を体験した世代です。マスクを外して互いの顔を見て行うコミュニケーションや体験の大切さも、実感を伴い理解したことと思います。コロナの進行と終焉の中で、社会は大きく変化しました。既存の価値観の見直しが進み、世の中も学校も格段に便利に効率的になりました。体験や対話の重要性も再認識されました。人類は大きな犠牲を払いながらも、パンデミックを乗り越え、社会を前に進めたのです。

しかし、同時に社会の不安定さも増しました。コロナ禍の2022年に始まったウクライナでの戦争は未だに続いています。中東情勢も未だ不透明です。不安や不信から排他的で短絡的な考えが横行し、権力者による偏った主義、主張が声高に語られることも多くなりました。対話が軽んじられ、ヘイトスピーチが横行しています。明らかに世界の民主主義は危機を迎えています。そんな時代の中で、高校を巣立つ皆さんに2つの事をお願いしたいと思います。

まず、どんな時も「当事者であってください」自分には関係ない、自分にはそれを是正する力はないと諦めないでください。自分事として世の中を見つめ、考え、意見を伝えてください。きちんと選挙に行ってください。自分と違う考えを持つ人や、耳が痛いことをいう人の言葉にも真摯に耳を傾けてください。そんな姿勢こそが民主主義を守る力となります。民主主義は与えられるものではなく、我々の努力で守り育てるものです。それを忘れないでください。

2つめは、不安定で不確実な世の中であっても、どうか「幸せであってください」高校を卒業し、5年後、10年後、皆さんたちは様々な人生を歩むことと思います。私が自分の人生で出会った様々な人を思い起こす時、幸せな人たちには、間違いなく一つの共通点がありました。お金や社会的地位とは全く無関係です。幸せな人生を歩んでいる人は皆、その人自身が「今ここにある幸せ」に気づいている人でした。

幸せになる唯一のコツは、皆さん自身が身近にある幸せに気づき、それに感謝する人であるということです。晴れた冬の朝が美しいと思えること。桜の花が咲く春に浮き浮きすること。夏の日差しの中で冷たい飲み物を飲むとき。何気ない会話で笑い合える瞬間。幸せは今、ここにあります。どこで何をしても、時に困難に立ちすくむことがあっても、社会や環境を言い訳にせず、身近にある幸せを感じ取りながら、この先の人生を歩んで欲しいと願っています。

決して楽しいだけの高校生活ではなかったと思います。二度と戻らない青春の日々をそれでも懸命に皆さんは過ごしました。その姿をご家族も、そして我々教職員も見てきました。

ふるさとは、母校はいつでもここにあります。卒業する皆さんの幸せを願っています。それぞれの高校生活を胸に刻んで、希望を持って自分の世界に歩み出してください。

卒業生の皆さん、改めて御卒業おめでとうございませう。これからの人生が挑戦と喜びに満ちたものであることを心から願って、令和7年度卒業証書授与式式辞といたします。

令和8年3月1日 青森東高等学校 校長 千葉栄美